

みよう、千枚田

open!

380年前から受け継がれる棚田・白米千枚田。世界農業遺産「能登の里山里海」（2011年認定）の象徴で、日本海に面した急斜面に広がる1004枚の幾何学模様の田んぼは日本の原風景です。現在、オーナー制度（※）の田の管理をしている愛耕会、輪島市役所、農業協同組合、地元農家によって米作りが引き継がれています。

※会費制で「マイ田んぼ」のオーナーになれる制度で、会員は農作業の体験ができる。

愛耕会からのメッセージ

時代とともに米づくりも機械化がどんどん進む中、千枚田では昔ながらのやり方で米づくりを続けてきました。1枚1枚が小さい田んぼなので機械を入れることができず、毎年たくさんの人手と労力がかかります。それだけの苦労をしても面積の半分は土手（と畦）といわれる千枚田。獲れるお米はわずかばかりで、合理化、効率化とは無縁の世界です。

そんな場所だからこそ、先人たちの米づくりへの執念、苦労が身にしみてわかります。苦労できるから、理解できる。日本人の思いの根底に触れられるのが千枚田ではないかと思うのです。先人たちの思いを引き継ぎながら米づくりを続ける中で、少しでもみなさんにその「心」も伝えていきたいと思っています。



［愛耕会］平成18年に故・堂前助之新さん（右から5番目）が地元の有志と始めた千枚田を守り継ぐ会。443枚の田んぼの耕作と、全国から米づくりに参加してくれるオーナーさんたちの田んぼのお世話もしています。

千枚田
ネットショップ

Facebook

Instagram

株式会社 千枚田
〒928- 0256 石川県輪島市白米町ハ部99番地5
TEL&FAX 0768-34-1004　✉ kirameki@ca1.wannet.jp



てづくり 白米千枚田帖

小さな小さな田んぼが1004枚。
機械が入らず今も昔も「人力」勝負の
白米千枚田の手しごとを集めました。



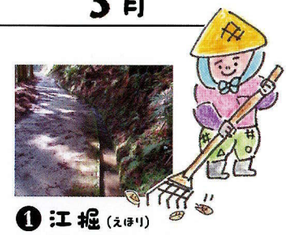


のぞいて 白米

door

千枚田のお米ができるまで

3月



❶ 江堀（えほり）

春を迎え、いよいよ米作りが始まります。最初の大仕事が、冬の間に田んぼの用水路にたまった落ち葉や木屑の掃除です。約1.5kmを地元のみんなでキレイにします。



❷ 畦直し・水戸直し

冬の間に雪の重みで崩れてしまった土手や畦、水の通り道（水戸）を補強します。





4月

❸ 田起こし

冬の間に硬くなった田んぼの土を起こしてやわらかくします。





❹ 代掻き

水の張った田んぼの土を砕いてやわらかくして水となじませます。畦のキワは畦塗りがしやすいよう重点的に細かくします。



5月



❺ 畦塗り

畦の壁に泥を塗り付けて割れ目や穴を塞ぐことで水漏れを防ぎます。



❻ 荒くり

田んぼの中の土をさらに細かく砕くことで苗を植えやすくします。



❼ エブリさし

「エブリ」という道具で田んぼを掻き混ぜて、表面を平らに慣らします。



❽ 枠ころがし

木枠で苗を植える目印をつけていきます。







6月

❾ 田植え



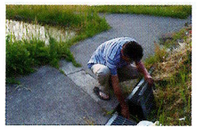
❿ 草取り

除草剤や農薬をほとんど使わないので、雑草がわんさか。手でひと草ひと草取り除いています。



⓫ ヘイ（ヒエ）取り

稲の隙間に生える「ヘイ」という稲とそっくりな雑草を刈り取ります。この実が田んぼに落ちると来年たくさんの「ヘイ」ができてしまい稲が育たなくなります。



水管理は毎日の仕事!

稲にとって一番大事なのが養分となる水です。すべての田に水が行き届いているか、毎日1時間以上かけて見て回ります。

7月



⓬ ハザたて

稲をかけて干すための木の棚「ハザ」を立てます。



夏は特に雑草との戦い!

畦や土手の雑草にカメムシなどの害虫が住みつくと米をダメにしてしまうので年に4~5回草刈りをします。

8月



9月



ひと株ひと株、手で刈ります。刈ったあとはハザに干すため2つに分けやすいようワラで縛ります。

10月



⓮ ハザ干し

刈った稲を木の棚にかけ天日干し。稲を渡す人と掛ける人、2人1組で作業します。

